



栗島へ行きたい！

日本海に浮かぶ「栗島」(栗島浦村)は周囲23キロで人口は370人。

村上市の岩船港から栗島の内浦まで、高速船で1時間(片道運賃:4,470円)、カーフェリーで1時間35分(片道運賃:2,520円)。島内には旅館や民宿が約20件あり、キャンプ場やバンガローもあります。

なんととっても海の幸が自慢で、もっとも有名なのが、「わっぱ煮」。杉を曲げてつくった「わっぱ」に、焼いた魚とネギを入れてお湯を注ぎ、真っ赤に焼いた石を落とし、ぶわわっと煮立ったところで味噌を溶き入れる豪快な漁師料理。そのほかにも新鮮なタイやアワビ、サザエなどでもてなしてくれます。

7~8月の海水浴や、9月中旬~10月上旬の「磯ダコ捕りツアー」など、これからが栗島観光のハイライト。夏休みの思い出づくりや、秋の旅に、栗島への旅を企画してみたいはいかがでしょうか。



「Eco列車でいこう！」~第178回~ 絶景だらけの秋田駒ケ岳。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を照会するコーナーです！)



7月13日(土)のお昼、新潟市を出発。約5時間かけて、秋田県仙北市までやってきた。温泉施設「ゆぽぽ」で入浴後、併設のレストランで夕食。妻は美味しそうに地ビールを飲んでいる。ハンドルキーパーは、もちろん飲酒できない。まあ、明日の宿まで我慢しよう。

「秋田駒ケ岳」の八合目駐車場には21時に着いた。街灯が無く真っ暗なので、星がきれい。クルマの後部座席を倒せば、カラダを伸ばして横になることができる。久しぶりの車中泊は快適だった。

よく眠って、早朝から出発。薄曇りだが、空は明るい。気温は15℃。少し肌寒いくらいだが、登山日和だ。「花の百名山」でもある秋田駒ケ岳への期待が高まる。

1時間ほど歩くと「阿弥陀池」周回の本道となり、黄色く大きな「ニッコウキスゲ」が咲き乱れる。「大焼砂」まで足を延ばせば、「高山植物の女王」の異名を持つ「コマクサ」に出会うことができた。

少し下ると、この山塊のハイライト「ムーミン谷」だ。フィンランドの作家「トーベ・ヤンソン」原作の「ムーミン」の物語を連想させる深い谷と「お花畑」。可憐な「チングルマ」などの花を楽しむ。

下山後、田沢湖駅前蕎麦の昼食。湖岸を一周し、約50年前に廃校になった「思い出の湯分校」でノスタルジックな時間を過ごした。

この日の宿はその名もズバリ「露天風呂水沢温泉」。日帰り湯として大人気の施設だが、自炊の宿でもある。洋室(トイレ付)1泊2名、素泊まりで10,200円也。スーパーで買い出した食材を「自炊室」で調理。

夕食の膳は、「タコときゅうりのカルパッチョ」「地元豆腐の冷や奴」「アサリのウイスキー蒸し」「屋台風焼きそば」。お酒は「プレミアムビール」と「ハイボール」。皿を下げる従業員などはいないから気楽だ。

翌朝5時。日中は日帰り客で大混雑していた大浴場にも露天風呂にも、誰もいなかった。硫黄の香漂う、源泉掛け流しの新鮮なお湯を独り占めして、贅沢な時間を過ごした。



高山植物の女王「コマクサ」



お花が咲き乱れる「ムーミン谷」を行く



きれいに管理されている生保内小学校湯分校